

# 関東福祉専門学校 令和5年度 第2回 教育課程編成委員会

日時：2024年3月18日（月）

10時～12時

会場：関東福祉専門学校 201 教室

1.開会 挨拶 関東福祉専門学校校長

2.委員紹介

【外部委員】（敬称略）

1.団体役員・有識者

鄭 安君 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 研究員

2.企業等役員職

加藤 英樹 撫でし子株式会社 代表取締役（オンライン）

小島 孝司 株式会社ウィンザー 代表取締役

【学校委員】

関東福祉専門学校教員

小山 まり 学校長

生方 薫 教務主任（領域 人間と社会 領域主任）

長谷川 方代 専任講師（領域 こころとからだのしくみ 領域主任）

柴崎 雄史 専任講師

松田 直子 専任講師

宮内 綾子 専任講師

3. 今年度の教育目標・授業内容について

パワーポイント資料参照

- ・国家試験合格に向けて、学生を小グループに分けて特別に対策講座を行った
- ・国家試験直前対策講座を学力別グループに分けて行った
- ・施設実習では介護過程（座学・演習）との連携を意識して行った
- ・人間関係とコミュニケーションでは人材マネジメントも3年前より取り入れている
- ・医療的ケアでは介護福祉士として必要な医療行為について8年前より座学・演習を行っている
- ・留学生の国家試験合格率を上げるために、日本語授業にも力を入れ、日本語能力試験2級合格を目指した

- ・学園祭ではコロナ明けで初めて学校で開催した
- ・パフォーマンス大会をはじめ、各行事においては学生主体で行った

#### 4. 委員からの意見要望

- ・留学生のモチベーションがどの部分にあるのかを探り、学校及び企業が支援していく必要があると考える（モチベーション：賃金か介護が好きという気持ちか等）
- ・外国人から選ばれる施設になるためには、外国人を理解することや外国人が働きやすい環境づくりが必要であり、そのうえで充実した職員教育（OJT）が求められる
- ・特定技能コースとの差別化を図るためにも学校の存在を考えないといけない
- ・今年度の入学生数が増加した理由について、留学生はコロナ明けで入国制限等の緩和が背景にあると考えられる。日本人学生数も微増しているが、今後も募集活動に力を入れていくことを改めた
- ・留学生のネットワーク（コミュニティ界限）が活発であるが、良い面も悪い面もある（企業側は離職に繋がるケースがあったが、学校側は募集の裾野を広げられる）
- ・円安やインフレ等の影響から、今後は留学生が日本を選ばなくなる可能性があり、学校や企業が日本の良さを示していかなければならない。また、新たな日本への留学ルートの開拓や学習へ結びつけるキッカケを探っていく必要がある
- ・留学生が地域コミュニティに溶け込んでいることは安心している
- ・養成校卒業の職員とそうではない職員では現場対応力に差が出ているとし、養成校で学ぶ介護過程（アセスメント研究）や学生主体の行事等の経験が現場で役立っている
- ・カリキュラム内容が充実していて、現場の介護ケアに生きる内容となっている
- ・パフォーマンス大会は素晴らしい行事で、学生の考える力を伸ばすことにつながっているし、学校ならではの楽しさや現場のレク考案等、利用者様の心のケアを支えるものになる
- ・東北にある施設では、人手不足も相まって、介護ケアに集中したいけれど他の業務が忙しくてできない現状がある。介護する人のケアも必要ではないかと考える

#### 5. その他 次年度委員開催の日程について

第1回：2024年8月26日(月) 10時～12時

第2回：2025年3月11日(火) 10時～12時

#### 6. 閉会